

- 3) 鈴木樹理・石田貴文・竹中修・川本芳・Varavudhi, P. タイ産カニクイザルの形態学的特徴, 第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 5:150.
- 4) 竹中晃子・竹中修, カニクイザルの α -グロビン遺伝子の構造, 第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 5:152.
- 5) 井上美穂・竹中晃子・光永聡子・大沢秀行・杉山幸丸・Gaspard, S. A・野崎真澄・佐倉統・竹中修, DNAの多型を用いたニホンザルの父子判定, 第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 5:153.
- 6) 村山裕一・寺尾恵治・野口敦夫・竹中修, マカク類汎T細胞に対するモノクローナル抗体の特性, 第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 5:154.
- 7) 鶴殿俊史・笹岡定信・井上美穂・竹中晃子・竹中修, 三和化学研究所霊長類センターにおけるチンパンジーの繁殖成績と父子判定, 第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 5:157.
- 8) 光永聡子・井上美穂・竹中晃子・杉山幸丸・A. S. Gaspard・野崎真澄・佐倉統・竹中修・大沢秀行, ニホンザル配偶行動のクラス間差異, 第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 5:165.
- 9) 景山節・田辺一史・小祝修 (1989): ウサギベプシノゲンのcDNA塩基配列および発生における発現の変化. 第62回日本生化学会大会. 生化学 61:1118.
- 10) 丹羽雅夫・景山節・高橋健治 (1989): マグロベプシノゲン主成分の全一次構造. 第62回日本生化学会大会. 生化学 61:1013.
- 11) 景山節・田辺一史・小祝修 (1989): ベプシノゲンのcDNAクローニングと発生過程における発現調節. 第60回日本動物学会大会. Zoological Science 6:1130.
- 12) 後藤俊二・中村伸・峰沢満・金井塚務・横田明 (1989) ニホンザルのスギ花粉症, 第36回日本実験動物学会要旨集, p58.
- 13) 中村伸・峰沢満・後藤俊二・金井塚務・橋本道子・和秀雄 (1989) ニホンザルにおけるスギ花粉アレルギーに対する自然感作状況, 霊長類研究 5:169.
- 14) Nakamura, S., Ichihara, K., Murayama, .. Sekiguchi, K., and Titani, K. (1989) Distinct effect of TPA and INF- γ on expression of tissue factor in human leukemia cell lines. Thrombosis and Haemostasis, 62: 347.
- 15) Hirata, M., Nakamura, S., Gotoh, S., Kawasaki, H., and Yoshida, M. (1989) Effect of endotoxin (LPS) on leukocyte population, tumor necrosis factor generation and tissue factor induction in monkey Thrombosis and Haemostasis, 62: 477.
- 16) 今村匡伸・中垣智弘・大山周三・船津昭信・中村伸・加藤久雄 (1989) ヒトVII因子モノクローナル抗体の作成およびVII因子精製への応用, 生化学, 61: 835.
- 17) 後藤啓・中村伸 (1989) ヒト胎盤 tissue factorの精製および性質, 生化学, 61: 835.
- 18) 中村伸・村山裕一・市原啓子・関口清俊・千谷晃一 (1989) 組織因子の発現・生成の調節, 生化学, 61: 836.
- 19) 浅岡一雄 (1989): 霊長類にみられるアシルCoA薬物代謝酵素アインザイムの退縮. 第62回日本生化学会大会, 生化学 61: 911.

系統研究部門

江原昭善・野上裕生・相見 満・瀬戸口烈司

研究概要

1) 霊長類各分類群の比較形態学的研究

江原昭善

(i) ヒトおよび各種サル類の下顎骨の機能的・形態学的研究

(ii) ヒトおよび各種サル類の頭蓋底部と姿勢との関連

2) 東海地方出土人骨の研究

江原昭善・木下実

3) 霊長類の歯の組織学的研究

野上裕生

4) ジャワにおける第四紀哺乳類の研究

相見満

5) 第三紀霊長類・食虫類・有袋類の研究

瀬戸口烈司

(i) 南米出土の化石について

(ii) 南米大陸とヨーロッパ大陸出土の第三紀食虫類化石の対比

論文

- 1) Aimi, M. (1989) : A mandible of *Sus stremmi* Koenigswald, 1933, from Cisoat, Central Java, Indonesia. *Publ. Geol. Res. Develop. Centre, Palaeontol., Sec. 6* : 4-10.
- 2) Aimi, M. and Nogami, Y. (1989) : *Macaca fuscata* develops thin enamel on lingual sides of lower Incisors. *Primates*, 30, 261-264.

報告

- 1) 江原昭善 (1989) 新明社員塚出土の人骨について, 新明社員塚, P. 189-198, 南知多教育委員会。
- 2) 江原昭善 (1989) 本刈谷貝塚出土人骨, 刈谷市史「本刈谷貝塚」, 5 : 624-634., 刈谷市教育委員会。
- 3) 江原昭善 (1989) 上カス貝塚出土人骨, 刈谷市史「本刈谷貝塚」, 5 : 552-558., 刈谷市教育委員会。
- 4) 江原昭善 (1989) 天子神社出土の人骨, 刈谷市史「本刈谷貝塚」, 5 : 533-536., 刈谷市教育委員会。
- 5) 江原昭善, 山下勝年 (1989) 林ノ峰貝塚 II。南知多町教育委員会。
- 6) 相見満 (1989) 哺乳類。刈谷市史, 1 : 63-68
- 7) 相見満他 (1989) 旧石器時代・縄文時代の遺跡と遺物。刈谷市史, 5 : 466-686。
- 8) Takai, M. and Setoguchi, T. (1990) : *Geology and Localities of Monkey Fossils in the La Venta Badlands, Colombia, South America.* *Kyoto Univ. Overseas Research Reports*, VII, 1-8.
- 9) Setoguchi, T. Takai, M. and other (1990) : *A New Ceboid Primate, Closely Related to Neosaimiri, Found in the Upper Red Bed in the La Venta Badlands, Middle Miocene of Colombia, South America.* *ibid.*, VII, 9-14.

総説

- 1) 江原昭善 (1989) 縄文時代をきた人びと, 刈谷市史, 1 : 43-63, 刈谷市教育委員会。
- 2) 江原昭善 (1989) ゴリラ, チンパンジーは亜人類。サルはどこまで人間か (江原編), 小学

館。

- 3) 江原昭善 (1989) 人間の地平を求めて。サルはどこまで人間か (江原編), 小学館。
- 4) 江原昭善 (1990) 人間はなぜ人間か—人類誕生の地平より。椋山女学園大学。
- 5) 江原昭善 (1990) 歩行と人類。公衆衛生, 医学書院。
- 6) 江原昭善 (1990) *Angenesis* からみた人類起源についての試論。科研費 (野沢班)「総合研究A」
- 7) 江原昭善 (1990) 人類言語のミッシング・リンク。言語, 20, 6. 20-26
- 8) 江原昭善 (1990) 人類の起源と進化。名古屋市教育センター, 35-41
- 9) 江原昭善 (1990) 人類の起源—人類ルネッサンス時代の到来。ニュートン, 10-1, 教育社。
- 10) 相見満 (1989) ピエトロ・ユグの真猿類と原猿類の博物誌。モンキー, 225 : 14-15
- 11) 相見満 (1989) マダガスカルの子イロカンムリシファカ。モンキー, 225 : 21-25
- 12) 相見満 (1989) 125年もかかった評価—キツネザルの新属: エウレムール属。モンキー, 226 : 8-11

学会発表

- 1) 江原昭善 (1989) 海上移動を思わせる愛知県知多市林ノ峰貝塚出土の縄文人骨について。日本人類学会第43回大会, 人類学雑誌98, 180
- 2) 相見満 (1989) メガルザルはもともと夜行性であった。第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究, 5 : 179
- 3) 瀬戸口烈司・高井正成他 (1989) : 南米コロンビアの中新世の新型霊長類化石。第5回日本霊長類学会大会, 霊長類研究, 5 : 179
- 4) 高井正成・瀬戸口烈司他 (1989) : ネオサイミリー (広島猿化石) の再検討。第5回日本霊長類学会大会。霊長類研究, 5 : 179